

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



臨時交付金の支給対象者

5月31日の国会で成立した22年度補正予算に盛り込まれた予算には、①子育て世帯生活支援特別給付金支給事業(4億4281万1千円)や②住民税非課税世帯等臨時特別給付金支給事業(4531万9千円)があります。これらは町田市を通じて、各世帯に支給されることから、町田市議会に追加予算案として諮られ、即日、成立しました。

- ① 子育て世帯生活支援特別給付金は児童扶養手当を受給している世帯や非課税世帯などの低所得者の子育て世帯が対象です。児童一人当たり5万円の支給とされ、8763人が対象とされ、6月下旬に振込予定です。「等」としたもので高校生のみを養育する世帯、コロナで家計が急変した子育て世帯などの場合は、支給時期が変わります。
- ② 住民税非課税世帯等臨時特別給付金は、新型コロナウイルスの影響で家計が急変し、非課税世帯と同様の事情があると認められる世帯が対象です。1世帯に10万円が給付されるもので、申請が必要とされるもので、全て市役所で書類を受理した後、順次支給とされます。

①・②共に**支給対象世帯は限定された方々になります**。(可能性があると思われる方、あるいは詳細が必要な方は、必ず町田市にお尋ね下さい)

そのほか、第3回目のキャッシュレス決済プレミアムポイント事業が実施されます。総額5億4千万円、決済金額の最大20%のプレミアムポイントが付与されます。1回あたり付与上限千円、期間中の上限1万円(変更前5千円)とされています。

②つがる市が「まちだシルクメロン」水耕栽培方式の設備導入

第2回定例会の議員一般質問で、まちだシルクメロンの技法(水耕栽培システム)の普及拡大を取り上げました。元来、この技術を開発したのは、町田市内の大浩研熱株式会社の社長 林大輔氏(株式会社 まちだシルク農園の代表)でもあります。*大浩研熱株式会社は、エアーノズルや熱風発生機などの産業用機械製造会社であり、その技術が水耕栽培システムの製品開発に取り込まれ、今日に至っています。

青森県つがる市(メロン生産高=全国第3位)は、都内神楽坂に東京事務所を置き、町田市内の企業(大浩研熱株式会社)がメロンの水耕栽培技術を開発し、生産段階に入っている情報を得て、その見学会に参加し、商談を進め、そのシステム設備のプラント導入を図りました。今年、つがる市内で本格生産に向けた設備工事に入る段階になっていますが、この間、大浩研熱の技術指導を受けてきたとのことでした。これまでに、町田市はその情報を把握しておらず、つがる市東京事務所を訪ねる中で、聞き取りした情報でした。これを機に、まちだシルクメロンの技法(水耕栽培システム)がさらに広がるようにPRの視点で質問としました。(↓ここから商談が始まる)



2019年9月の見学会でつがる市職員と同席

- ◎所属会派の名称はシンプルに「無所属」とし、3名の議員で構成しています。
- 支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。
- 吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、間もなく第50期生がスタート

インターン体験記⑤上野竜空

「町田市民生委員児童委員協議会」を担当する職員の方々に、「民生委員・児童委員とは何か」を教えてくださいました。主に地域内で活動し地域住民のお困りごとを拾い上げ関係機関へつなぐ、いわば「地域のパイプ役」を担っているようです。

また、テレビCMなどでその存在を広報しているとのことですが、町田市では、成り手不足が生じているようです。現行の適格要件を考慮したうえで、柔軟に人財を確保することが重要だと考えました。



左が、石川よしたただ町田市議会議員です。

次に、町田市議会議員であり、「保護司」としての顔もお持ちの石川よしたただ様にお会いしました。今回は、主に保護司としてのご経験をお聞きし、活動に関心がある私へアドバイスなどをしてくださいました。その中でも、「情報や選択肢が様々に広がる現代において、自分が感じる「ただ一つ」の正解だけを追わず、広く視野を広げて、よく見なさい」というお言葉は、進路選択を控えている私には特に身に染みる言葉であり、とても印象的でした。

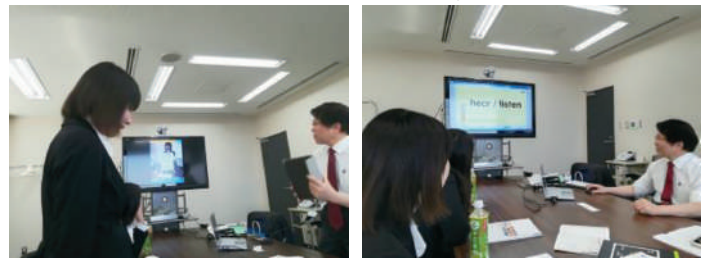
中央大学4年生 上野 竜空(第50期研修生)

図書館サービスのデジタル化

今年度の予算の中で、新しい図書館づくり指針事業(図書館サービスのデジタル化)があり、2点の内容が盛り込まれています。1つは、デジタル端末操作を相談できる支援員を図書館に配置し、デジタル端末を持たない方にタブレット端末を貸し出す事業が中央図書館で行う予定となっています。

もう一つは、電子書籍サービスの導入(デジタルに慣れる)と言うもので、図書館に来館しなくても常時利用できるサービスを開始するものです。そのために、電子書籍のコンテンツ使用料や電子書籍導入委託料も盛り込まれています。

ゆくゆくは、ペーパーの書籍が全部デジタル化される方向に行くかも知れませんが、学校教育でデジタル教科書の使用がなかなか本格化しない面もあり、果たしてどこまでデジタル化が拡大されるか不透明な点が多く残っています。なお、国会図書館は、保有する「入手困難資料」のうち、電子データ化が済んだものを対象に公開を図るサービスが開始されました。同館の利用登録をした上でのことですが、当初は閲覧機能からスタート、コピー対策を講じた上で来年1月には印刷できるようにする予定となっています。



東京書籍でデジタル教科書の研修を受ける

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年4月末より50期生が研修を開始しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎次期インターンシップの第50期生となりますが、現在、1名参加中、他にも受付中です。